

自分が自分であることの 確かな証し、それが「歯」。



前号に引き続き『Health Information』にご登場いただいた小菅栄子先生。今回は歯科医師と検視警察医の両面から、私たち一人ひとりの個人性＝アイデンティティ(ID)を証明する「歯」の重要性について語っていただきました。

篠原歯科医院 院長 群馬県警察検視警察医 歯学博士

こすげ えい こ
小菅 栄子 さん



祖父、父ともに歯科医師の家庭に育ち、幼いころより歯科医師を目指す
1996年神奈川歯科大学歯学部卒業 翌年より群馬県警察検視
警察医として活動開始 2010年より群馬県高崎市・篠原歯科医院院長

篠原歯科医院 〒370-0851 群馬県高崎市上中居町181 TEL 027-326-8347 <http://shinohara-dental.jp/>

歯は大切なパートナー

現在、私は群馬県高崎市の歯科医院で院長を勤めています。日々の診療を通して強く思うことは、もともと歯に関心を持つていただきたい、ということ。「若いうちに治療をしておけばよかった」とおっしゃる年配の患者さんも多いです。若いころは体が元気なので、少々歯が悪くてもそれほど不便を感じないため、1本の歯を残すことの大切さに気づきにくいものです。しかし、年を取ると、食事をしっかりと噛んで食べることが何よりも大切になります。そうなるとう歯の良し悪しや口の機能が健康に直結してしまうのです。例えば、口の中のわずかな衰え(食事中のむせ、口臭、口の渴き、歯の欠損、食べこぼしなどを放置してしまふと、知らず知らずのうちに栄養の低下をまねき、全身の健康を損なうことにつながってしまいます。また、左右でバランスよく咀嚼することは体のバランスを保つために非常に重要で、歩行などにも影響を及ぼしてしまいます。つまり歯は栄養補給だけでなく全身の健康維持に欠かせないものです。高齢者にとってしっかりと噛めることが、長く健康でいるための秘訣です。

人となりを語る歯

健康維持とともに、歯にはもう一つ大切な役割があります。それは人の印象

を形づくるということです。多くの方の歯を見てみると、もう少し歯に気を遣えば、もっと若く見えるのにか、品がよく見えるのにも思ふことがあります。歯は人となりを語ります。口元の印象がよいだけで、その人の印象もよくなるのです。髪やお肌には相当のお力ネをかけるのに、なぜか歯には関心のない方が多いようです。歯科医師としてはとても残念なことです。性別や年齢を問わず、歯は身だしなみの一部と考えて、もともと歯のおしゃれに関心を持っていただきたいと思ひます。

ところで、皆さんは「8020(ハチマルニイマル)運動」をご存知でしょうか。「80歳になっても20本以上、自分の歯を保とう」という運動のことで、厚生労働省と歯科医師会が推進しています。高齢者でも20本以上の歯があれば食生活にほぼ満足することができるといわれています。実は、私が歯科医師を始めた25年ほど前であれば、ご年配の方の場合、歯を見るとおおよその年齢がわかりました。ところが、最近では80代でもきれいな自分の歯が20本以上残っている50〜60代と見間違えるようなケースが多いのです。そういった皆さんは、自分の健康に自信を持って、ハツラツとして活動的に見えます。ぜひ今日から歯に気を配ってください。歯の健康を保つ秘訣は自動車の車検と同じです。自覚症状がなくとも定期的に歯科医院に足を運んでメンテナンスをすることが大切です。

最後に残る歯で身元確認

私は新米の歯科医師のころから、「検視警察医※」として群馬県警に協力しています。病院以外で亡くなった方を対象として、ご遺体の歯の特徴を用いてその方の身元を確認することが任務です。病院以外で亡くなるケースというのは、その死亡原因が不慮の事故や自宅での孤独死であったり、また地震や水害などの災害によるものであったりと、その原因はさまざまです。個人の取り違えは許されないので、顔だけではなく、できるだけ科学的な手法で身元確認をしなければなりません。特に、指紋やDNA、歯などの特徴が用いられます。

歯は人体の中で最も硬い組織で、高温にも耐え、たとえ白骨になっても残ります。そのため指紋やDNAが採取できない場合でも、歯があればその方の身元確認が可能となることも多いのです。ただし、それには条件があります。それは、その方が生前に歯科医院に通院したことがあって、歯科治療のカルテやエックス線写真などが歯科医院に残っているということなのです。

日本では毎年、千人以上の方のご遺体が身元不明として扱われています。つまり誰だか分からない無縁仏となってしまうのです。身元を特定できず、歯やDNAなどによる身元確認もできないご遺体が、ここ20年ほどの間に累積し、およそ2万人にもなっているのです。生前にかかりつけの歯科医院に通院して、自分の歯科記録を残していれば、もしかしたらご家族の元に帰ることができたかもしれません。

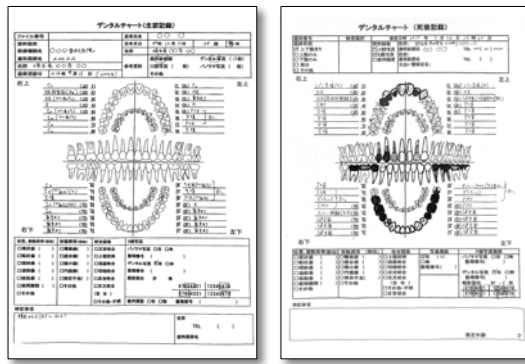


群馬県高崎警察署 署長と

※「検視警察医」は群馬県警で用いられる名称で、ほかの都道府県の警察では異なる名称が使われている場合があります。

生前と死後の歯の記録を照合

ところで、歯による身元確認はどのように行われるのでしょうか。私たちは、ご遺体と対面した場合まず、「デンタルチャート」と呼ばれる死後の歯科記録を作成します。人間には32本の歯がありませんが、その有無を一つひとつ確認し、治療があればそれがどのようなものかを調べ、詰め物などがある場合にはその大きさや色、材質などをチェックし、その形を絵に書きながら記録します。そうして32本の歯の記録を作成するとともに、口の中の写真や歯のエックス線写真を撮影します。こうして遺体の歯に関する情報をそろえると、次にその方が受診していた歯科医院から生前のカルテや歯のエックス線写真などを入手し、生前と死後の記録を丁寧に突き合わせて同一人かどうかを確認するのです。



デンタルチャート(生前記録)

デンタルチャート(死後記録)

平時では、通常、このように亡くなった方の候補者が絞られることが多いので、手作業で身元確認を行うことができます。大規模災害のときなど、ご遺体の数が多く、誰がどこで亡くなったかがわからない場合には、身元確認作業がたいへん困難になります。例えば、2011年の東日本大震災の際には、約1万8千人の方が亡くなり、これまでに経験したこともないような数のご遺体がありました。私たちは、そこで、デンタルチャートの情報をデジタル化して検索する方法を開発して身元確認の迅速化を図りました。この経験が中心となって、いざという時に歯の情報を迅速に収集・検索するための仕組みを検討しています。

新たなシステム開発に挑む

東日本大震災では、歯科医師の手書きによるデンタルチャートの情報をデジタル化して検索するシステムを開発・運用したのですが、より進んだ考え方で、歯のエックス線写真などの客観的な画像データを直接照合することが考えられます。これは、警察で用いられている指紋や顔の照合システムなどと同じような考え方です。実は、私はこのような考え方を2000年頃から提案してきました。生前と死後の歯のエックス線写真を自動照合するという考え方です。



この技術が原理的に実現可能であるという目的が立ったのは2005年頃、東北大学との共同研究による成果でした。この共同研究は現在も継続されています。

最近、メディアで紹介される機会が多くなったこの取り組みですが、研究を始めた当初は国内の学会で発表しても誰も関心を持ってくれませんでした。それならばいつそのこと海外で発表しようということで2007年に渡米し、「北米放射線学会(RSNA)」という放射線医学では世界最大の学会で研究内容をプレゼンテーションしたところ、大反響がありました。学会中にCNNをはじめとするさまざまなメディアから取材を受けました。その頃のアメリカでは2001年の同時多発テロの影響で、多数の方が亡くなった際の身元確認方法の改善が急務とされていたのです。

その後、日本でも東日本大震災を経験し、このような次世代の身元確認支援システムの開発が求められています。

実用化に向けてクリアすべき課題も多いのですが、今後ますます共同研究を加速させていきたいと考えています。



北米放射線学会(RSNA)にて

父の志を継いで警察医に

私が歯科医師を目指したのは、祖父、父ともに歯科医師だったためです。警察医として群馬県警に協力するようになったのも、父の影響によるものです。群馬県では1984年、他の都道府県に先駆けて県内の医師・歯科医師により警察医会が組織されました。そしてその翌年、県内の山中で日航機墜落事故が発生したのです。そのとき、父も身元確認のために、毎晩、遺体安置所となった体育館に出かけていきました。警察医会が組織力を発揮して迅速な身元確認を可能にしたことが、当時マスコミで話題になったのをよく覚えています。

現在、群馬県の警察医会には187名が在籍し、そのうち歯科医師は約58名です。診療中にも要請があれば出勤することがあり、なかなか大変な仕事ではありますが、一人でも多くの方を家族の元へ帰したいという気持ちから検視警察医を務めています。

警察医の仕事をしていてつくづく思うのは、人間にはいつ何が起るかわからないということです。事故や災害はもちろんですが、群馬県では、近年、高齢者の孤独死も増加しています。以前、経験した孤独死の事例では、家のポストが新聞やチラシでいっぱいになっており、死後かなり時間が経つてからの

発見でした。なぜ、もっと早く発見されなかったのだろうと胸が苦しくなりました。また、痴呆症の奥様を介護していたご主人が先に自宅で亡くなり、残された奥様も近所の方に気づいてもらえずにご遺体となって発見されたという事例もありました。家族はもちろんのこと、ご近所とのコミュニケーションの大切さについて痛感させられる事件でした。

歯は世界に一つの「ID」

これまでにお話ししてきたように、歯はその人の「ID」です。それは健康

状態や人となりを表すだけでなく、万が一の時には身元確認の重要情報となる、世界で唯一無二のものであります。ぜひ、ご自分の歯を大切に、歯のメンテナンスのために定期的に歯科医院を受診してください。また、企業経営者の方は、ぜひ会社の健康診断のメニューに歯科健診を導入してください。社員の方の健康増進につながり、もしものときの確かなIDとなります。このIDは、自分自身であることを最期まで証明するものであり、万が一の際には、残された家族や知人との「絆」となるのです。このことを、忘れないでいただければと思います。



災害と身元確認
ICT時代の歯科情報による個人識別
江澤 庸博・青木 孝文・
柏崎 潤・小菅 栄子 著
総頁数：174頁 / カラー
判型：A4判
医歯薬出版